

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

昭和火口では、3月1日から2日にかけて爆発的噴火¹⁾が3回発生し、本日(2日)06時53分には弾道を描いて飛散する大きな噴石が4合目(火口から800~1300m)まで達しました。また、大隅河川国道事務所が有村観測坑道に設置している傾斜計及び伸縮計の観測では、山体の膨張と考えられるわずかな変化が認められます。

これらのことから本日10時30分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2から3に引き上げました。

桜島の噴火活動は活発化する恐れがあり、昭和火口及び南岳山頂火口から2km程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石(火山れき)に注意が必要です。

降雨時には土石流に注意が必要です。

なお、昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、長期的には次第に活発化している傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

○活動概況

・噴煙活動の状況(図1, 3)

昭和火口では、3月1日から2日にかけて噴火²⁾が4回発生し、そのうち3回が爆発的噴火でした。噴煙の最高高度は昨日(1日)15時03分の火口縁上2000mでした。本日06時53分の爆発的噴火では噴煙は火口縁上1500mまで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石は4合目(火口から800~1300m)まで達しました。

・地殻変動の状況(図2)

有村観測坑道(九州地方整備局大隅河川国道事務所)の傾斜計および伸縮計では、山体の膨張と考えられるわずかな変化が認められます。

GPS連続観測では、顕著な地殻変動は認められません。なお、国土地理院のGPS観測によると、^{あいら}始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な変化が続いています。

・地震及び微動の発生状況(図4)

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いています。

- 1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。
- 2) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは噴煙量が中量以上(概ね噴煙の高さが1,000m以上)の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。また、基準に達しない噴火は、ごく小規模な噴火としています。

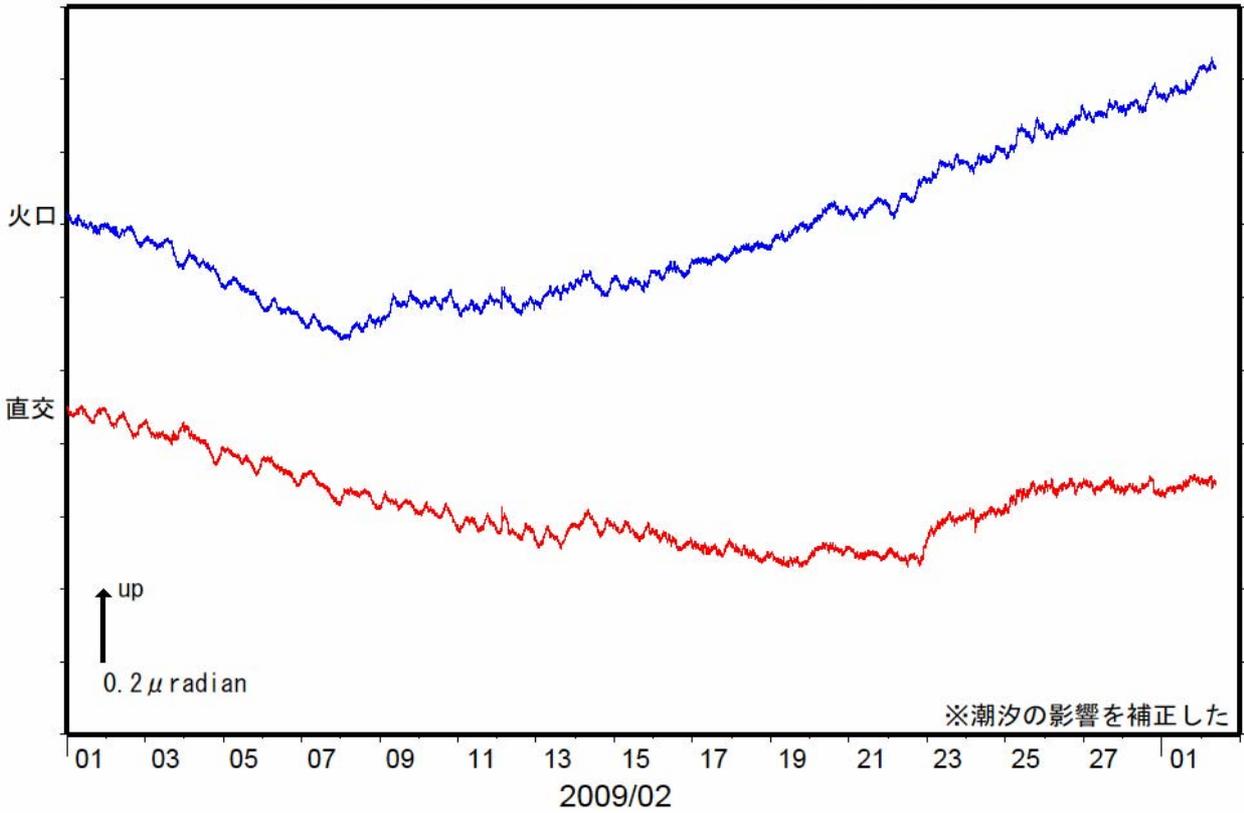
※この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所のデータも利用して作成しています。この火山活動解説資料は気象庁ホームページ

(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)で閲覧することができます。



図1 桜島 本日の噴火の連続写真 ①～④06時43分の噴火 ⑤～⑧06時53分の爆発的噴火
噴煙は、06時43分の噴火（この時刻の前からごく小規模噴火が発生しています）では火口縁上1800mまで、06時53分の爆発的噴火では火口縁上1500mまで上がりました。

有村観測坑道水管傾斜計（最近30日間の変動）



有村観測坑道伸縮計（直交方向）

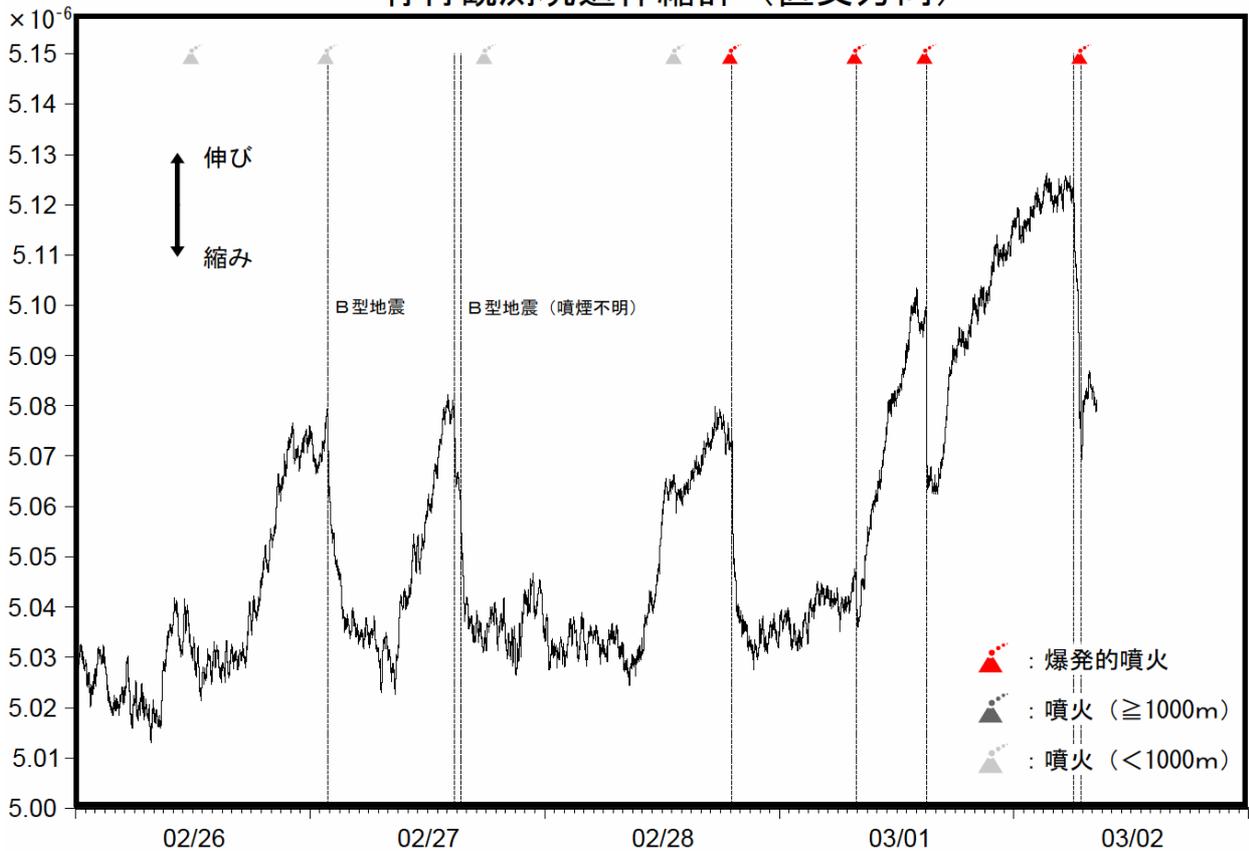


図2 桜島 地殻変動の状況

有村観測坑道（九州地方整備局大隅河川国道事務所）の傾斜計及び伸縮計では、山体の膨張と考えられるわずかな変化が認められます。

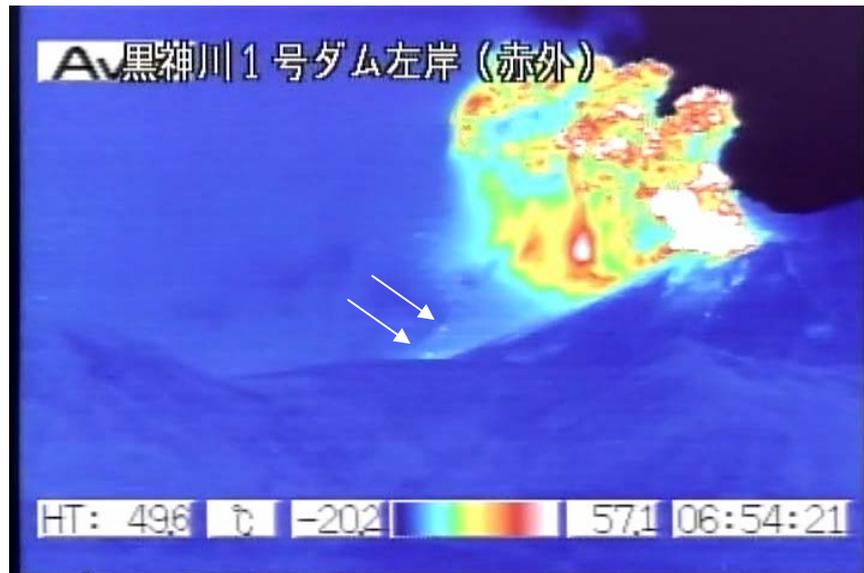


図3 桜島 噴火時の状況 (九州地方整備局大隅河川国道事務所の赤外熱カメラ)
本日(2日)06時53分の爆発的噴火では大きな噴石が4合目付近まで飛散しました。
※図中矢印は飛散した大きな噴石

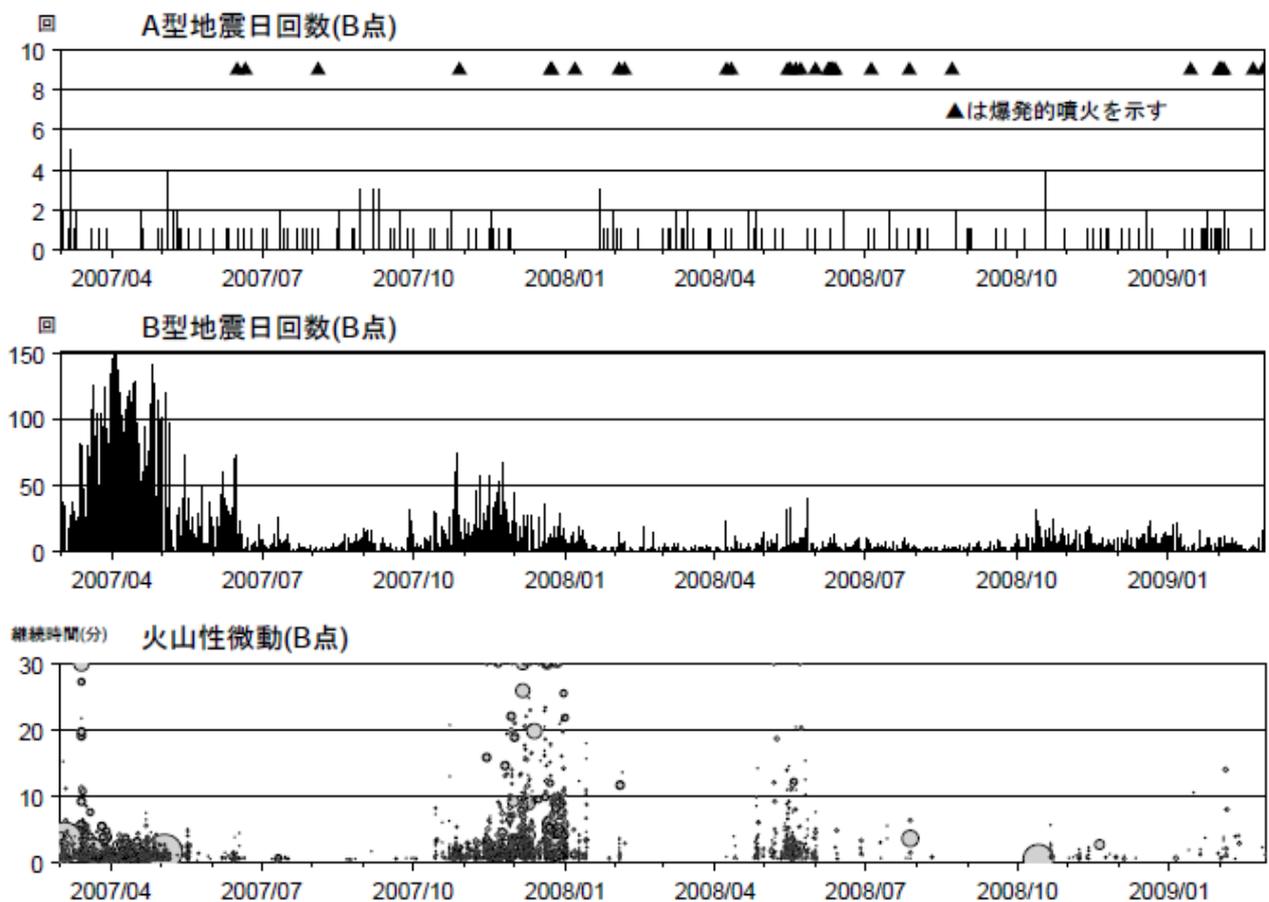


図4 桜島 火山性地震微動回数(2007/3/1~2009/2/28)
火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いています。
※▲爆発は山頂火口の噴火も含まます